

# 憎まれる幸い

シリーズ～新イエス～

2025/3/30

## ルカ福音書6章22～23, 26節

人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。

すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。

# 「平地の説教」の続き

## • ルカ版の「至福の教え」

- 「貧しい人々」、「今飢えている人々」、「今泣いている人々」は「幸い」である
- いずれも、この世では「幸い」とは思えないが、イエスは彼らの「幸い」を約束された

## • 更に信じられない「幸いなとき」

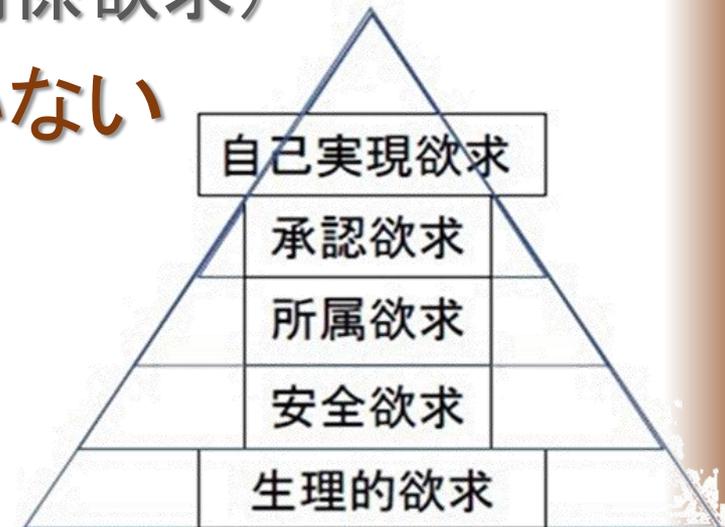
- 人々に憎まれるとき
- (人の子のために) 追い出されるとき
- ののしられるとき
- 汚名を着せられるとき

# 人々に憎まれるとき

- 誰も憎まれたいとは思っていない
  - むしろ好かれたい、愛されたいと願っている
- わけもなく憎まれるのは耐えられない
  - 憎まれるようなことをしたのなら仕方がないが、理由もなく憎まれるのは辛い
- 憎まれて幸せだとはとても思えない
  - むしろ不幸である

# 追い出されるとき

- 誰でも受け入れられること、所属することを求めている
  - 「追い出される」とは集団から仲間外れにされること(村八分)
- 「所属」は人間の基本的欲求の一つである
  - マズロー(心理学者)の説(関係欲求)
- 追い出されて幸せな人はいない
  - むしろ不幸である



# ののしられるとき

- 面と向かってののしられることはないかもしれないが、悪口を言われることはある
  - ネット上には悪口が溢れている
- 言葉の暴力は心を傷つける
  - ありもしないことや身に覚えのないことで悪口を言われたならその傷は深い
- ののしられて幸せだとは思えない
  - むしろ不幸である

# 汚名を着せられるとき

- 誤解や偽りの情報をもとに悪い評判を受けること
  - そのような目に遭ったら悲しいし怒りを覚える
- やってもないことで罪に問われる(冤罪)
  - あってはならない人間にとってもっとも嫌なこと
- 汚名を着せられて幸せなはずがない
  - 最大の不幸である

# なぜ不幸なのか

- **そうでない状態こそ幸いだと思う**
  - 愛され・受け入れられ・ほめられ・正しく評価されることこそ幸せだと思う
- **そのような目に遭うことは理不尽である**
  - 自分は、憎まれ・追い出され・ののしられ・汚名を着せられる者ではないから
- **本当にそうだろうか？**
  - 私たちはかろうじて体裁を繕っているだけで、実は憎まれ・追い出され・ののしられ・汚名を着せられても仕方のない罪人なのではないか？

# 本来私たちは神の目には

## • 好ましくない

- 「主は御顔を背け／再び目を留めてはくださらない。」(哀歌4:16)

## • 神の国にふさわしくない

- 「蝮の子らよ、あなたたちは悪い人間であるのに、どうして良いことが言えようか。人の口からは、心にあふれていることが出て来るのである。」(マタイ12:34)

## • ののしられても仕方ない

- 「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。」(ローマ7:19)

## • 裁かれなければならない

- 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」(3:23)

# そんな私たちを神は

## •憎まずむしろ愛し

•「憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり」(エフェソ2:4)

## •追い出さずむしろ受け入れ

•「父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。」(15:20)

## •ののしらずむしろ褒め

•「主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。』」

## •汚名を自らの独り子に着せられた

•「わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの罪を自ら負った。」(イザヤ53:11)

# そればかりかイエスは

## • 憎まれた

- 「群衆はますます激しく、『十字架につけろ』と叫び立てた。」(マルコ15:14)

## • 追い出された

- 「しかし、人々は一斉に、『その男を殺せ。バラバを釈放しろ』と叫んだ。」(ルカ23:18)

## • ののしられた

- 「そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。『おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、十字架から降りて自分を救ってみろ。』」(マルコ15:29-30)

## • 汚名を着せられ、十字架につけられた

- 「ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。」(マルコ15:15)

# だから幸いなのだ！

- 神は私たちが憎まれ・追い出され・ののしられ・汚名を着せられることを知っておられる
  - またそれらがいかに辛く苦しいことかも
  - イエスは私たちの目の前でそれらを**最も悲惨な方法で**一経験された
- 誰からもほめられようと思うな！
  - 「すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。」
- やがて神が報いて(ほめて)くださる
  - 「その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。」

人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。

ルカ福音書6章22～23節